

基本計画策定に向けた検討項目について

「松本市立病院整備のあり方に関する将来構想」において、基本計画策定の視点として掲げた6項目について、項目ごとに検討いただくものです。

検討項目【地域における役割】

公立病院として、地域連携・在宅医療・災害医療・感染症対策等の役割を積極的に担う体制の整備を検討します。

- ・ 大学病院等の高度急性期医療機関との連携や、近隣のクリニックや福祉施設との連携を強化
- ・ 高齢者の増加に伴う、在宅医療の需要増加を考慮した、在宅診療部門の充実
- ・ 災害医療として、大規模災害時でもBCP(事業継続計画)に基づいた医療機能提供可能な施設
(将来構想より)

市立病院の現状

地域連携・在宅医療

- ・ 在宅療養後方支援病院
地域の開業医との連携により、在宅治療患者の急変時の受入れを行うもの
(28年度現在登録開業医数 12、登録患者数 206人)
- ・ 26年度回復期リハビリテーション病棟開設
集中的なりハビリを行い歩行や日常生活能力の向上を図り在宅、社会復帰を目指す病棟
- ・ 28年度地域包括ケア病棟開設
急性期治療終了後、しばらく入院を継続し在宅復帰の準備を整える病棟
- ・ 27年度訪問看護訪問件数 4,398件、27年度訪問リハビリ訪問件数 1,197件
- ・ 27年度居宅介護支援契約者延数 346人

災害医療

- ・ 災害時黄タグ対応病院
松本市災害時医療救護活動マニュアルにおいて、トリアージによる色分けで黄タグを付された中等症の傷病者に対応する病院として指定
- ・ 山形村との災害医療協力協定(ペア病院)
松本広域圏災害時医療連携指針に基づき、大規模災害時において医師・看護師・事務員等からなる医療チーム(救護班)を編成し、山形村へ派遣する協力協定を締結
- ・ 東日本大震災への医療チームの派遣
平成23年3月11日発生した東日本大震災において、6班・延べ37名の医療チームを編成し、宮城県石巻市で2カ月間にわたり災害医療活動を実施

感染対策

- ・二類感染症病院指定（6床）

平成12年8月指定 二類感染症は感染力や罹患した場合の重篤性などに基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症で、ポリオ、結核、ジフテリア、SARS、鳥インフルエンザ等が該当

- ・平成21年度に発生した新型インフルエンザに対し、院内感染、二次感染を防ぐため、外来トリージ室の開設、感染防護具の装着等、マニュアルに基づき対応した。

へき地医療支援

- ・奈川診療所及び安曇地区診療所に医師を派遣し、両地域の医療活動、後方支援を行っている。

平成27年度実績

奈川診療所への医師派遣 定期12回、臨時3回

看護師の常時派遣

安曇地区稲核診療所との医師人事交流 44回

会田病院との連携

- ・同じ松本市病院局所管の病院として、看護師、理学療法士の人事異動や必要に応じて医師派遣による支援を行っている。

住民健康福祉教育・住民参加型活動

- ・住民健康福祉教育の支援として地域の健康教室等に講師を派遣
- ・4団体及び個人の有志の皆さんが、ボランティアで定期的に生花の植え替え、カバーの作成や入院患者の話し相手を務めてくれている。また、病棟でコーラスや楽器の演奏を行っている。

市立病院の考え方

地域における役割

- ・基本方針の一つに掲げているように、へき地医療支援や感染対策、災害医療、予防医療等、政策医療を担う自治体病院として保健や福祉と連携し、地域の皆さんの健康を守っていく。
- ・周辺地域のまちづくりに貢献できる施設として整備・運営していく必要がある。

地域連携・在宅医療

- ・在宅療養後方支援病院として、在宅医療を担う地域の診療所との連携を強化し、より多くの在宅療養者を支援する。
- ・地域連携業務に連動した、薬剤師の在宅訪問指導の検討
- ・回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟の在宅復帰率を高めるため、浴槽・トイレ・家事動作など、「家」に見立てたリハビリ環境の整備について検討

災害医療

- ・大規模災害発生時には、医療救護は当然のことながら、災害対策に関わる様々な支援をしていくことが、自治体病院としての責務と考える。市内の多くの病院が市街地に立地していることを考えると西部地域に位置する当院は、災害の種類によっては非常に重要な存在になる可能性もあることから、余裕のある敷地に災害医療に対応できるスペースを有した施設の建設が必要である。
- ・免震構造であることは不可欠で、地下水利用、太陽光などの自然エネルギー利用に配慮が必要である。
- ・地震災害を考え、想定される人数の受け入れに必要な機能が求められる。ヘリポート、臨時ベッド、点滴、毛布、食料などの備蓄についても検討が必要である。

感染対策

- ・新興感染症に限らず災害時でも地域の方のニーズに応えられる診療体制を維持できる設備を目指す。
- ・感染予防として各経路別予防策に適した病室デザインとする。特に第二種感染症指定医療機関として「空気感染対策」に適した陰圧室（隔離病室）は換気設備だけでなく、快適性も考慮したレイアウトとする。

へき地医療支援

- ・へき地医療を担う安曇・奈川地区の市営診療所（5施設）の持続可能な医療の提供を支援する。

会田病院との連携

- ・会田病院は、平成30年度に無床診療所とする方針であり、地域の医療提供体制を将来にわたり確保していくため、一層の連携強化が必要である。

住民健康福祉教育・住民参加型活動

- ・開かれた病院事業を継続発展させていく。地域に出向き健康教室・公開講座などに人的支援を行っていく。
- ・病院は多くのボランティアの方に支えられていることから、ボランティア活動専用のスペースを確保するなど、ハード整備も必要である。
- ・患者さん自らが支え合い、寄り添い合う患者会や患者サロンの存在も大切であり、人的支援のほか専用スペースの提供も必要である。

検討項目【健康事業の充実】

地域住民の健康維持という観点から、今後、予防医療領域に積極的に関与する必要があります。新病院では、健診センターの設置等、健診機能の強化を図り、本市が掲げる「健康寿命延伸都市・松本」の創造の一端を担い、産学官連携による事業展開も検討します。

(将来構想より)

市立病院の現状

健診・健康管理

人間ドックや各種健診を取り扱う健康管理科は、病院3階の一角に設けられた小規模な部署であり、健康センターのような独立した施設にはなっていない。

健康管理科取扱件数

年度	ドック				健診		社保特 定健診	市町村 検診	その他	合計
	日帰り	一泊	脳	計	けんぽ	企業				
25	843	290	13	1,146	1,519	451	145	1,034	922	5,217
26	960	320	6	1,286	1,522	480	134	1,061	853	5,336
27	933	298	14	1,245	1,637	459	131	1,232	607	5,311

人間ドック（1日あたり最大10人まで対応）

- ・日帰りドック 平日毎日
- ・一泊ドック（4床） 月火、木金
- ・アクティブドック 平日毎日

アクティブドックは、人間ドックと公共の宿梓水苑にて実施するからだアセスメント（松本大学大学院 根本賢一教授監修による運動・食事療法）をセットにした新たなメニューとして、梓水苑とのタイアップにより本年4月からスタート

市立病院の考え方

- ・病院の重要な役割を担う部門であるが、施設、人員ともに不足し需要に応えられない状況である。今後も高い需要が見込まれることから、現在の2倍の受入れが可能な施設、人員体制を整えたい。
- ・専門の健診センターの設置等、健診部門の充実を図り、受診の必要な方への診療支援を充実させる。
- ・地元の大学等との連携により、地域のリサーチや健康増進、検診の拡大などを模索検討
- ・専従常勤医による安定的な体制と収益を確保する。
- ・市の保健師と病院の専門職との人事交流などにより行政との連携を強化する。